

二〇二二年六月一八日

夜半に聴く瀬音に遠き河鹿笛
青鳶の窓震はせて聖歌隊
同病と知りし親しさながし吹く

凡士
凡士
たか子

二〇二二年六月一七日

まだ苗の歪みの見える植田かな
終ひ湯の窓に貼り付く火取虫
百年の糺むろあり甘酒屋
キャンパスに列ぶ銀輪新樹光
黒日傘低く御廟所巡りけり
萍の雨の水輪に踊りけり

明日香
素秀
むべ
あひる
なつき
素秀

二〇二二年六月一六日

牛蛙親鸞像におらびをり
菖蒲園畦に置かれし泥軍手
御廟所の崩れし土塀黴匂ふ

うつき
隆松
なつき

二〇二二年六月一五日

隠沼の静寂揺さぶる牛蛙
助手席に忘れ物ありサングラス
梶子の風通ひくる理髪店
孵化したる針先ほどの目高かな
梅漬ける五十年なる重し石

やよい
こすもす
素秀
みきお
うつき

二〇二二年六月一四日

雷神の一喝を浴ぶ真夜の風呂
落ちさうで落ちぬ葉裏の蝸牛
カプセルを割くやに翔ちし天道虫
サボテンの針の中より花ひらく

うつき
せいじ
豊実
満天

二〇二二年六月一三日

蜘蛛の囿が繋ぐ千本鳥居かな
水が好きでも潜れないあめんぼう
青梅雨や讚美歌に和す雨の音
老鶯や搗き餅うまし鄙の茶屋
さざ波のごとくに風の姫女苑

もとこ
明日香
せいじ
凡士
せいじ

二〇二二年六月一二日

下駄鳴らすあぢさゐる寺の石畳
柿若葉土塀朽ちたる武家屋敷
練習船小旗涼しく出航す
ほうたるの闇の淵なる瀬音のかな

なつき
凡士
たか子
うつき

毎日句会みのもる選・二〇二二年六月二〇日